



チーム会報告

No.1

NST チーム会 北5病棟 加地玲子

NST チーム会発足後4年が経過し、リンクナースとして栄養状態の評価と対象患者の抽出がタイムリーにできるようになりました。

今年度のラウンドは109件、VFは12件です。NST カンファレンスでは、代謝栄養学を基盤とした栄養アセスメントを行い、医師、コメディカル間で活発なディスカッションが展開されています。近年話題のトピックは、『集中治療期の栄養療法』と『サルコペニア』です。急性期での取り組みとしては、ICU 栄養アルゴリズムを作成し早期経腸栄養が軌道に乗り始めました。また、サルコペニアとは、加齢に伴う筋肉量の低下を指し、ベッド上安静の時期から四肢体幹や嚥下の筋肉量維持が求められます。今後は、「とりあえず安静」「とりあえず絶食」を一刻も早く脱し、早期栄養開始を進めていけるよう働きかけていきたいと考えます。

褥瘡ケアチーム OP室 小野しのぶ

褥瘡ケアチーム会では、褥瘡予防や治療についての知識、技術が深まりリンクナースとして活動できることを目標としています。活動内容としては、毎週水曜日の褥瘡回診への参加、チーム会で毎月症例検討会・勉強会を行い、褥瘡研修の企画・運営なども行いました。その中から褥瘡に関する知識を習得し、患者・スタッフ指導に関われるようになってきました。

今年度より、褥瘡治療としてVAC（陰圧創傷治療システム）治療が開始され、治療期間の短縮が図られました。しかしながら褥瘡は、最新のシステムで治療をすることも大切ですが適切な除圧を行い、摩擦やズレの予防などのケアに努め、そして発生させないという私達の統一した意識が大切です。

救急ケアチーム OP室 古谷 亜希

救急ケアチームは、MEと連携して週1回の人工呼吸器ラウンド、災害対策の施設設備のチェック・環境改善などに取り組みました。まず呼吸器ラウンド用紙の改善を行い、病棟スタッフと情報共有しケアにつなげることで、重篤な合併症やトラブルを起こす事なく経過しました。また、防災ラウンドやカンファレンスを実施し、スタッフへ呼びかけることによって防災意識が高まり、環境改善につながりました。今後も意識し継続していくことが重要です。

急変時や災害時に備え、シミュレーションを行う事が有効であり、患者に一番近い存在である私達が日頃から考え、看護実践能力を向上させていくことが大切です。



No.2

緩和ケアチーム 北6病棟 三浦 彩

わが国では生活習慣病のうち、癌による死亡率は1981年より第1位で、男性の2人に1人、女性の3人に1人が癌になっていると推測されています。がん患者や家族は、癌と診断されたとき、治療の経過、あるいは再発や転移が分かった時などのさまざまな場面でつらさやストレスを感じています。

緩和ケアチームでは常に**トータルペインの視点**を持って、その時々において揺れ動く患者・家族の気持ちに寄り添い、様々な苦痛症状のケアについて話し合いながらケア方針を決定し、少しでも症状が和らぐよう直接ケアにつなげています。また、患者・家族だけではなく院内スタッフに向けて緩和ケアに関する専門的知識、技術の教育、支援を行っていきますので、どんどん緩和ケアチームへの依頼をお願いします。

勤労者看護プロジェクトチーム OP室 山根千春

今年度より補佐会を中心に、各病棟・外来のリンクナースに協力を得て活動を開始しました。

労災病院の役割認識から、勤労者医療・看護を学び、愛媛労災病院で実践すべき勤労者看護について学習し、今年度は**「勤労者データベース」**の作成・運用まで実施できました。

次年度は**「病棟と外来の継続看護実践」**を目標に「継続看護に必要な情報と、看護の実際を記録として残し、他職種と共有できるシステム」を皆さんと一緒に考え、勤労者の生活支援に取り組んでいきたいです。ご協力をお願いします。



糖尿病ケアチーム OP室 小川 早智

糖尿病ケアチーム会では今年度、糖尿病患者療養指導チェックリストを活用した患者の療養指導を行いケアの充実を図ること、入院患者に安全で質の高いフットケアが実施できることを目標に活動しました。糖尿病患者療養指導チェックリストを活用した事例の検討を行いました。フットケア研修会は、**昨年の5倍の参加**があり、意欲や技術を高め、フットケア件数の増加に繋がりました。今後もチェックリストを活用した指導を継続し、フットケアの技術だけでなく、**アセスメント能力を更に向上**させ、足病変の予防やケア計画に活かせるように取り組んでいきます。

